

- 1 会議名 厚生・文教常任委員会協議会
- 2 日時 令和4年2月16日(水)
午後2時20分から午後2時41分まで
- 3 場所 第2・3委員会室
- 4 出席委員 (委員長) 大野慎治 (副委員長) 谷平敬子
(委員) 須藤智子、井上真砂美、関戸郁文、木村冬樹
欠席委員 (委員) 宮川隆
- 5 説明員 教育こども未来部長 長谷川忍、子育て支援課長 西井上剛
- 6 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同統括主査 寺澤顕
- 7 委員長挨拶
- 8 報告事項

(1) 令和4年度の放課後児童クラブについて

教育こども未来部長：岩倉北小学校の複合施設が竣工するというので、北小学校区の放課後児童クラブについては、4月7日から新しい施設で実施していく予定。その他、来年度の放課後児童クラブについても今年度のコロナ禍の対応を含め変更点があるので、担当課長から報告する。

子育て支援課長：令和4年度放課後児童クラブの運営について。条例の改正のほう、4月7日の始業式を施行日としている。新年度4月1日から6日までの春休み中は従前のおり第一、第二児童館。新年度からの運用について、おやつ代を収集して提供していたが、コロナ禍では希望者のみが持参とし、午後4時半以降に決められた場所で食べていた。保護者のアンケートの結果、令和4年度以降も希望者のみの持参となった。1日分に小分けにしてもらって、最大1週間分を預かる。また、新年度から試行で土曜日は集約して実施する。土曜日の定期利用者数は市内合計で一日平均30名程度、多くて10名、少ないと3名以下、1名の所もある。そこに職員を2名配置してきた。子どもへのメリット、施設の効率的な運営、土曜日に児童館授業等の他の事業が実施できるという観点で、土曜日の集約実施について保護者にアンケートを実施した。結果も踏まえて、ゴールデンウイーク後から、北小学校の放課後児童クラブを始点に集約する。

【質疑】

井上委員：土曜日の集約について、北小校区が多かったのか。

子育て支援課長：1番多いところは五条川小学校区であったが、市内全域から集まるため、市の中心部とした。

木村委員：保護者に事前にこのことは伝わっているのか。

子育て支援課長：アンケートを全利用者に行っている。100%の賛成は得られな

かったが、土曜日を利用しない世帯も含めて85%の世帯から賛成を得ている。

土曜日を利用している15~20%の世帯では70%以上の賛成を得ている。

井上委員：土曜日の放課後子ども教室はどうなるのか。

教育こども未来部長：これまで同様に実施を予定しているが、ただコンピューター一室の利用は見直しを図る予定。

関戸委員：集約によってサービスの利用をやめる人はいるのか。

子育て支援課長：まだわからない。それならばやめるという声は今のところない。

木村委員：あくまで試行という話であったが、決定は。

子育て支援課長：できれば継続して実施していきたいと考え、試行に期限は設けない。試行が上手く運用できればおのずと本格実施になる。いつから本格実施とは考えていない。

(2) その他

特になし。

9 協議事項

(1) 政策提言について

大野委員長：政策提言を委員会として進めていこうというところで生涯学習センターにおける講座のオンライン化であるが、講座によっては試行的にオンラインを取り入れていきたいということであった。政策提言をどうしていくか。

関戸委員：やることが予定されているのであれば、あえて政策提言するべきではないのかなと思う。

大野委員長：提案しないことでいいか。

(異議なし)

大野委員長：戦没者追悼式や敬老金のあり方、適応指導教室についても提案者が一般質問を行うなどしてはどうか。

関戸委員：オンライン授業も、デジタル庁が進めているので、それらを注視しながら、各議員が一般質問を行ってはどうか。

大野委員長：他に意見はないか。

(意見なし)

大野委員長：委員会として政策提言は行わない。必要があれば議員個々が一般質問を活用して行っていくものとする。

木村委員：先程の執行機関報告事項である放課後児童クラブの土曜日集約に関しては、6月定例会等で、再度委員会として確認などが必要と思われる。

(2) その他

なし

10 その他

なし